

矢崎科学技術振興記念財団

研究助成金・矢崎学術賞など決定

矢崎科学技術振興記念財団はこのほど、平成29年度の研究助成金などの受領者、矢崎学術賞の受賞者を決定した。

今年度は、新材料、エネルギー、情報を対象分野とし、研究の独創性に重点を置いて選考を行った。一般研究助成（各200万円）は5件。東京大学大学院の竹中充准教授による『ゲルマニウムを用いた高効率中赤外光変調器の開発』、関西学院大学の吉川浩史准教授による『金属有機構造体を利用したエネルギー材料

の開発』など。

若手研究者を対象にした奨励研究助成（各100万円）は10件。大阪大学大学院の三輪真嗣准教授による『界面磁性の電界変調に関する研究』、室蘭工業大学大学院の小林洋介助教による『よく聴こえる拡声システムのための音圧合成システムの構築』など。

同財団が設定するテーマと合致する研究を支援する特定研究助成（1000万円）は、東北大学大学院の福島善史准教授による『高密度ナノ配線形成に資する金属含有ブロック高分子のグラフト・ケミカルエビタキシ』が選ばれた。

国際的な学会で論文や共同研究を発表する際の渡航費を援助する国際交流援助対象には19人が選ばれた。過去に同財団から研究助成を受け、優れた成果をあげた研究者を顕彰する矢崎学術賞の功績賞は、『新規ポルフィリン金属錯体の光エネルギー変換触媒への利用』で名古屋大学大学院の忍久保洋教授が受賞。若手を対象にした矢崎学術賞奨励賞は、『超高速量子ドットプローブを用いた固体微細デバイス中の局所電子状態のダイナミック計測』で理化学研究所の大家朋廣研究員が受賞した。

費を援助する国際交流援助対象には19人が選ばれた。過去に同財団から研究助成を受け、優れた成果をあげた研究者を顕彰する矢崎学術賞の功績賞は、『新規ポルフィリン金属錯体の光エネルギー変換触媒への利用』で名古屋大学大学院の忍久保洋教授が受賞。若手を対象にした矢崎学術賞奨励賞は、『超高速量子ドットプローブを用いた固体微細デバイス中の局所電子状態のダイナミック計測』で理化学研究所の大家朋廣研究員が受賞した。